

平成21年度戦略的研究開発プラン採択課題一覧

番号	実施機関	課題名	研究の概要	(実施年度) 研究費総額	共同研究先
1	工技センター	県特産果実を用いた果実酢醸造技術の開発	柿果実をクエン酸発酵することで酸の刺激臭を無くし、柿果実の栄養・機能性の損失を最小限にし、さらには、クエン酸生成による機能性が増強された新たな果実酢醸造技術の開発を行う。	(平成21～23年度) 19,900千円	田村造酢(株) 近畿大学 (独)果樹研究所
2	農業試験場	高設栽培でのイチゴ高品質連続多収生産技術の開発	環境制御が容易な高設栽培の特徴を活かし、イチゴの高品質連続多収生産技術を開発する。 また、低温寡日照期の生育促進による収量増を図るため、CO2の群落施用技術(イチゴ群落付近のCO2濃度を高め、高効率で長時間の施用を可能にする技術)を開発するとともに、養水分吸収量を確保するための栽培溶液濃度・量及び培地温度管理を確立する。	(平成21～23年度) 13,000千円	和歌山県いちご生産組合連合会 大阪府立大学
3	暖地園芸センター	実エンドウの生理機能の解明による高品質・多収生産技術開発	主要な環境要因でありながら生育との関係に不明な点が多い温度、光及び土壌環境に着目し、これら要因が生育に及ぼす影響と光合成産物の流転過程を解明する。それにより、適切な温度環境管理技術、透水性・保水性等の土壌環境管理技術、生育・花芽形成促進のための補光技術、流転過程の解明による草勢のバランス維持技術及び着果安定のための新整枝法を開発し、実エンドウの高品質・多収生産技術を確立する。	(平成21～23年度) 14,913千円	(株)日本医化器械製作所 近畿大学生物理工学部 農業試験場
4	養鶏研究所	和歌山版エコフィードの開発	食料脂質酸化による畜産物の品質低下を抑えるため、エコフィードに梅種子等を加えた和歌山版エコフィードを開発し、和歌山らしい鶏卵・鶏肉の生産技術を確立する。	(平成21～23年度) 14,200千円	(株)太陽産商 近畿大学 工業技術センター
5	工技センター	カーボンコーティングによる農薬散布ノズルの改良	現行のステンレス製に対してDLC(ダイヤモンドライクカーボン)によるカーボンコーティングを行い、ノズル先端の耐摩耗性を向上させ、耐食性を上げることで、現行製品に比べて20%の長寿命化を目指した高性能・高付加価値製品を開発する。	(平成21～22年度) 5,000千円	ヤマホ工業(株) (独)産総研
6	工技センター	新しい医療用材料構築のための機能性ペプチド固定化技術の開発	薬剤耐性菌を含む広範な細菌や骨髄腫細胞を選択的に破壊するカプトムシディフェンシン由来の改変ペプチドを、様々な手法で高分子材料に化学結合させ、それらの活性を比較することで本来の機能を保持できる固定化法の開発を行う。	(平成21～22年度) 5,000千円	農業生物資源研究所
7	暖地園芸センター	局所冷房による特産切り花の早期多収生産技術開発	ヒートポンプを用いたハイブリッド型冷暖房システムの冷房機能に着目し、局所冷房によって効果的に定植後の植物の生育環境を制御することで、切り花の品質向上と増収を図る技術を開発する。 トンネル等で冷房容積を小さくし効率的に冷房する局所冷房技術の開発と、それに対応した新しい育苗技術を開発する。	(平成21～23年度) 5,000千円	(株)ネポン 大阪府立大学
8	水産試験場	海水温上昇に伴う水産業への影響評価並びに適応策の検討	水温上昇に最も影響の受けやすい浅海域の動植物相の調査を行い、過去の事例や本県より南に位置する海域の動植物相と比較するとともに、コンブ目植物のプロテオーム解析の結果を基に水温の上昇程度を指標化する。また、今後の水温上昇を想定し、本県の各地先沿岸に適応が予測される海藻類を探索する。	(平成21～23年度) 5,000千円	和歌山東漁業協同組合 北海道大学 近畿大学生物理工学部